

Case Study

支部ケース・スタディ

中国支部

NHK放送研修センターと協議し 制作編成WG年1回の研修会実施

島根県ケーブルテレビ協議会 事務局
(石見ケーブルビジョン(株))



大石 竜次

平成10年、島根県内6事業者で協議会設立

島根県ケーブルテレビ協議会は平成10年に、島根県におけるケーブルテレビ事業の発展につとめ、事業者間の連携と相互理解によりケーブルテレビの普及促進と地域の情報化に寄与することを目的として、設立しました。現在では15会員事業者(内、自主放送実施局14者)となり、県内全域をカバーし活動しています。

平成27年には、県内各局を光接続し県内連携ネットワークを冗長構築し、協議会として、このネットワークを活用し高校野球生中継や県議会生中継他さまざまな番組を生中継しています。これは技術WGや制作編成WGの協力なしでは成立しません。今日でこそハード部分は構築したものの、本来の番組制作のためのソフト面のスキルアップを図るべく平成24年度より制作編成WGにおいてNHK松江放送局様のご協力のもと、毎回NHK放送研修センター様より講師陣を招き、年1回の制作編成WG NHK研修会を実施し、今年度で第9回目を数えます。

スキルアップや課題解決のために、NHK研修に参加

さて、本題の制作編成WGではリーダー1名、サブリーダー2名を配置し、各局より数十名が参加し日々のスキルアップや課題解決のために、各局各担当者が協力して活動していますが、その一助がNHK研修です。

初回のテーマ「放送倫理とマネジメント」、「放送用語と表現」、「不適切表現」に始まり、「震災地に届ける生活情報」など、制作職としてではなく、放送局としての心得や役割から学びました。続いて中継番組や音声技術、ロケ時の撮影・照明技術などの基礎知識を学び、実際に機器を使っての体験などもしていただきました。近年では、応用編としての意味合いも込めて、緊急災害報道の基礎をNHK松江放送局のアナウンサーに実体験でお話しいただきました。

ケーブルテレビの役割のひとつに、災害時、どれだけ細かい情報を届けることができるかということがあります。県単位で放送を行うNHKや民放局とは違い、ケーブルテレビは、放送エリアが市町村単位です。過疎化の進んだ島根県で、なおかつ山あいに住む人たちにとって、地域のケーブルテレビが地域のために行う細やかな情報提供は、必ず役に立つはず。そのすみわけ、どこで情報を見ているのかを想定した情報発信は、ケーブルテレビにしかできないことだと実感していますし、多くの参加者も同様な感想を持ったことと思います。

協議会設立20周年時に多元中継を実施

島根県ケーブルテレビ協議会は、設立から20年を超えました。20周年の年には、初めての試みとして、多元中継を行いました。それぞれのケーブル局が自局の情報を県内へ発信するものです。ひとつの局をキー局とし、そこへ向けてそのほかの局が映像を配信。キー局ではスタジオにMCやゲストを交えて全局へ配信すると

いった、技術的にも初の試みでした。2時間程度の生放送でしたが、多少のミスも愛嬌で、無事に放送を終了しました。

本題はここからで、2年前の研修では、その番組2時間をすべてNHK研修センターの講師の方に見ていただき、講評をしていただきました。MCの描写の仕方、構成の作り方、画作りの方法など、なかなか手厳しいというか、貴重なお言葉を頂戴しました。各局数分と決められた尺の中で、どのように紹介すると効果的なのか、フリップではなくて、映像を使うことの説得力、ナレーションではなくインタビューを入れることの伝わり方の違いなど、思い出ただけでも参加者の静寂が思い起こせます。もちろん、悪意があつての言葉ではなく、放送をより良くするためのアドバイスをいただいたと思っています。その後、協議会での同様な取り組みは行っていませんが、また是非行って、成長を感じてもらえることが、この取り組みの原点ではないかと考えています。

取材現場からのIP伝送技術に高い関心

昨年度の研修会では、IPを活用した放送と緊急報道について、さらに、グレーディングの重要性や可能性について教えていただきました。ケーブル局は、設立当初から、ケーブルをつないで放送・サービスを提供することが前提ではありますが、こと取材現場においては、無線やIPの技術が使われています。ケーブルがあるからこそその安定性と信頼感はあるものの、取材現場からのIP伝送技術は、多くの局が望む技術であり、興味を持って拝聴できました。リュックほどの伝送機器を現場に持ち出で、電源を入れるだけで、携帯電話の電波を使い、局舎まで伝送する。携帯電話の電波に影響は受けるものの、携帯電話が通じる地域であれば、問題なく伝送できるシステムが紹介されました。協議会に加盟するケーブル局でも使用している局もありますが、そのメリットは計り知れないものです。使用用途は各局様々ですが、これまで、研修会で学んできたことを発揮できる機器の紹介、ならびに使用例を教えてくださいました。

研修会で学んできたことや提案いただいたことを、ケーブルテレビ局それぞれが、そのまま実行できるわけではありません。大きな規模の放送局でできることと、小さい局でもできることはもちろん別ものです。わずか1日という研修時間をどう生かすか、その日だけにとどまらず、自局でどうアレンジしていくかというヒントを毎回もらうことができています。

人手不足を人材育成で解消

年々顕著に現れ始めたことに、制作職の人手不足があげられます。ことアナウンサー、とりわけスポーツ実況に関しては、大きな課題となっています。協議会制作WGを中心に行っている高校野球の生中継、中学校の県総体など、スポーツの実況は、普段からアナウンス業務を行っている人にとってもハードルが高いのかもしれない。9回目となる今年度の研修では、スポーツ実況という領域に踏み込み、協議会としてはもちろん、それぞれの局でも生かせるようなスキルを学べればと考えています。

平成24年度からスタートした制作WGと、NHK放送研修センターによる研修会。当初の「ケーブルテレビとは」「放送とは」といった比較的概念的な内容から、今ではその内容もより細かく、質まで問われる内容となってきました。協議会の会員局として、ひとつでもふたつでもレベルを上げていくこと、それを続けていくことが肝要かと思えます。ケーブルテレビにしかできないこと、NHK・民放局にはできないことを任されていると考え、今後も情報共有を行い、視聴者、そこに住む人々へ貢献できればと思えますし、研修会は私たちにそのきっかけ、ヒントを与えてくれる場だと考えます。

このように、島根県ケーブルテレビ協議会では、県内の加盟局(半数以上は自治体局)の集合体として個局で

はできないことを大きな器として日々スキルアップをする場の提供や情報共有をし、各地域そして県内全体を視野に入れて我々の使命は何か、地域住民に必要とされるケーブルテレビ局を自覚し、伝わりやすい表現を工夫しながら各局が業務に励んでいます。世の中はデジタル化となり制作編成WG、技術WG含め日進月歩で変化中、当然習得していかなければなりません、高齢者比率の高い島根県ではアナログ要素も必要であり、基本は忘れずに今後も各局一丸となって取り組んでまいります。

【NHK放送研修センターと協議して行われた制作編成WGの様子】

2017年度



【緊急災害報道の基本】

2018年度



【番組制作スキルアップ】

2019年度



【IPを活用して放送充実～緊急報道にも運用～】